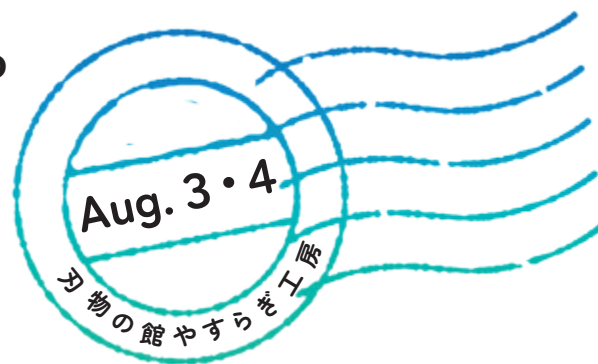


山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる

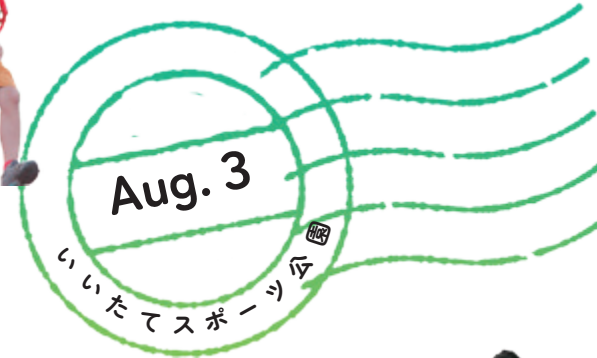
株式会社二瓶刃物（刃物の館やすらぎ工房）が、古代から伝わる技法を再現しながら鍛冶仕事の魅力を伝えるイベント「山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる」を、7月から11月にかけて断続的に開催しています。8月3日・4日のイベントでは、古代の炉を復元して鉄をつくり、その鉄から蕨手刀（わらびてとう）を製作するという挑戦を公開しました。代表の二瓶貴大さん（大倉）は「1200年前の飯館を舞台に、当時の鍛冶屋の仕事を再現し、この地に根ざす歴史や誇りを、村の人達と共有したい」と思いを込めます。父で親方の信男さん、刀鍛冶の師・藤安将平刀匠も、この挑戦を全面的に支えています。

また、鍛冶仕事や鉄に親しむワークショップ、村内事業者が特製メニューを提供する飲食ブースも設けられ、来場者がゆったりと楽しんでいました。

次回は9月15日の午前10時から、交流センター「ふれ愛館」で、藤安刀匠を講師に、復元炉とつくられた鉄について振り返る講演会が開かれます。〈要事前予約☎0244-42-0333（二瓶刃物）※FAXも同じ〉

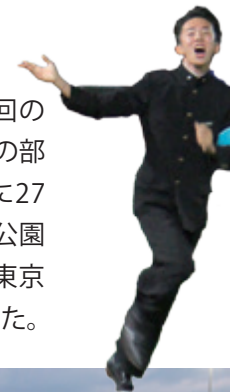


上は砂鉄スライムをつくるワークショップの様子と、復元炉から取り出された鉄のかたまり。下の写真は炎を上げる復元炉、鍛錬、日没後に行われた焼き入れの場面。



いいたてナイター駅伝

夕暮れ時に開会する「いいたてナイター駅伝」。第3回の開催です。小学生の部（1km×4区）に13チーム、中学生の部（2km×4区）に6チーム、フリーの部（3km×4区）に27チームがエントリー。陸上競技場をスタート・ゴールに、公園内の周回コースで選手がタスキをつなぎました。また、東京大学運動会応援部が来場し選手に熱いエールを送りました。



暑い暑い夏でしたが、8月の飯館村は、ユニークで特別なイベントが目白押しでした。どのイベントも、飯館村の持ち味を生かし、あるいは飯館村や村民に思いを寄せて開かれた、素敵な企画ばかりです。ワクワクのときめきと共に、村主催のもの、民間主催のもの、マルっとまとめて紹介します。

いいたて夏だより



開会式は午後5時から。式の後には尾田寛幸さん（元実業団ランナー）を講師にランニング教室も行われました。レースでは、さまざまなグループが声援を送り合って、夏の夜の駅伝を楽しんでいました。

